



佐高 SGH通信 2020

スーパー グローバル ハイスクール

No.3 (2020年5月18日発行)

「学校教育デザイン研修」を行いました！

～Zoomを活用したオンライン方式で開催～

令和2(2020)年5月14日(木)14～15時に、SGH指定校最終年度をふまえて、これまでのグローバル教育事業の振り返り方とSGH指定期間満了後の在り方を考える一助として開催しました。講師はベネッセコーポレーション関東支社長の蘆田章吾先生です。関東圏を中心に、全国のSGH校の取り組みを数多く支援されている方です。本研修は画面対話を行うアプリ「Zoom」を活用し、蘆田先生とはオンラインで行いました。在宅勤務の10名の教員、出張中の教員1名もオンラインで参加することができました。

◇会場～“3密”に配慮し分散開催～

全体では選択教室4で実施しましたが、Zoomを使って開催するため、ネットにつながる環境のある場所で聴講や質疑を行うことができました。校内にいても“3密”に配慮し、分散して他教室から参加したりしました。

- 全体では選択教室4
- 教員宅(在宅勤務)
- 教員の出張先
- 英語科準備室、社会科準備室等

会場からも質問

◇主な講話内容

- ①他のSGH指定校が指定終了後にいった学校づくりについて先進的な事例を紹介。
(例) 静岡県立御殿場高等学校、山梨県立吉田高等学校など
- ②学校作りの手法や視点についての助言
 - 現状分析が第一歩で、最も重要なステップ→**SWOT分析**で、自校の強み・弱みを分析しよう。
 - 抽象的な教育目標を、資質・能力ベースで具体化しよう。定性的・定量的なものにする。
 - 指導と評価はセットで考える(車の両輪)。
 - 社会の変化を押さえたものが、トレンド感も大切。

◇投影されたスライド資料より。

◇主な質疑応答(抜粋)

資質・能力ベースの学校目標例は増えているという 戸田圭一先生「吉田高校の学校教育目標を具体的に落とし込んだ教育課程や指導計画作成にかけた時間はどれくらいか。」
 蘆田章吾先生「およそ3ヶ月です。定期試験日の午後の時間などやりくりして時間を生み出したと聞いている。」
 栗原啓子先生「SGH後の新たな教育目標が、教員、生徒、保護者に納得感のあるものにするため、どう意見集約するか」
 蘆田章吾先生「全員でなく、例えば生徒会の生徒、保護者は希望者を集めて、その意見を集約するのが望ましい。」
 川俣海瑠先生「中高一貫教育校として、6年間を見通した指導目標にしていく事が大切と思う。他校の事例を教えてください。」
 蘆田章吾先生「現在事例は収集中。集まり、整理が終わりしだい提供したいと考えている。」

